

保護者様



令和4年度 後期自己評価について(お知らせ)

標記につきまして、国が定めております保育所、保育指針に基づき、保育所は保育の質の向上を図るため、保育士の自己評価を踏まえ、保育の計画の展開や保育の内容について前期分の評価を終了致しましたので、お知らせいたします。

【評価の目的】

- ・評価をすることで保育士等の専門性の向上と共に保育所全体の質の向上を図る。
- ・保育士一人ひとりが、自己の保育を振り返り、基盤となる子どもの理解を深めることで、日々の保育実践の意味を考え、次のより良い実践へと繋げていく。

【評価の方法】

- ① 保育所保育指針に基づく保育者のための「自己評価チェックリスト」を使い、第1章から第7章について各々自己評価をし、平均値を出し全体傾向をグラフにしました。
- ② 「保育を振り返る会」を開き、2グループに分かれ参加をした。
自分たちが心を動かされた多くの子どもの成長、そして一年間実践してきた保育を一人ひとりが話し、さらに今後の保育への思いを語り合う会とした。

【今期の評価を通して見えたこと】

- ① チェックリストの結果を令和4年度前期と比較すると、第7章子育て支援以外の項目については同率かわずかであるが上回る結果となった。しかしながら、「第7章 子育て支援」については前期より6%下回り、子ども保護者との信頼関係が構築される過程において、保育士が自己を振り返り日常の中で十分な支援が行えたかどうか、難しさや不足を感じたことが伺える。このことは、より深く「子育て支援」について考察した結果であり、自己の取り組みについての新たな指針となったと考える。また、経験の浅い保育士にとっては、チーム全体で支援体制を整える事で、より良い「子育て支援」に繋がった。
- ② 「保育を振り返る会」では一年間の保育を振り返る中、その時々心温まるエピソードの紹介や子ども達の伸びやかな成長の姿を伝え合うことが出来、またそれぞれで実践してきた保育を認め合い、共有し、自己の成長も実感する結果となっている。伝え合う中、自身の事のみではなく、広い視野で他の保育士の実践に注目し、今後の保育の新たな目標として掲げる等、次の段階の取り組みを見出す場面もあった。さらにチームとしての取り組みや協力が支えとなっていることを互いに確認し、共通認識することができた。保育士としてのやりがいと職務に対する責任と思いを共有する事が出来、今後のより良い保育の実践に繋がるものとする。

「人権擁護のためのセルフチェックリスト」は各々が、保育者としての、行動、子どもとの関わりを振り返るためであり、「人権擁護」と言う視点から、自己の関わりを見つめ直し「子どもを尊重する保育」への理解と認識を深めることが出来るものとする。前期に引き続き、大切な指針としてチェックを行う事とした。

今後も自己研鑽に努め、外部研修や園内研修での学びを深めることでより専門性を高め、実践する中で課題を明確にし、共有する事で園全体の質の向上を図る。

これからも保護者の方、一人ひとりのお子さんに寄り添い、保育士として深い愛情を持って、子ども達に向き合うと共に、自己の保育を振り返ることを怠らず、コミュニケーション力を高め、保育力、チーム力の向上に繋げていきたいと考える。



チェックリスト集計

令和4年度 後期

自己評価対象	チェック項目	項目数	「はい」の数	割合
第1章 総則		67	58	87%
	1 教育及び保育の基本と目標	13	12	92%
	2 特に配慮すべき事項	54	46	85%
	(1)教育及び保育の配慮	14	12	86%
	(2)健康支援	20	19	95%
	(3)食育	11	10	91%
	(4)特別支援教育・障害児保育	9	5	56%
第2章 子どもの発達		14	13	93%
第3章 「ねらい」及び「内容」		110	95	86%
	1 保育内容「健康」	22	21	95%
	2 保育内容「人間関係」	22	20	91%
	3 保育内容「環境」	22	16	73%
	4 保育内容「言葉」	22	21	95%
	5 保育内容「表現」	22	17	77%
第4章 低年齢児の保育実施上の配慮事項		40	38	95%
	1 乳児期の保育に関する配慮事項	28	26	93%
	2 満1歳以上～満3歳未満児の保育に関する配慮事項	12	12	100%
第5章 指導計画作成に当たって配慮すべき事項		30	27	90%
第6章 研修と自己評価		15	12	80%
第7章 子育て支援		17	13	76%
	合計	293	256	87%

